



視 点

第44回全国夏期セミナー沖縄大会 を終えて

このたび、第44回全国夏期セミナー沖縄大会を、全国各地から多くの皆さまにご参加いただき、無事に開催できましたことを、現地実行委員長として心より御礼申し上げます。会場に足を運んでくださった方々、オンラインでつながってくださった方々、そしてご支援・ご協力を惜しみなく注いでくださった多くの皆さまに、深く感謝いたします。

全国夏期セミナーが沖縄で開催されるのは今回が初めてでした。準備を進める中で、私たち実行委員会は「沖縄で開催する意味」を常に問い続けてきました。南国リゾートのイメージが強い沖縄ですが、同時に、かの凄惨な地上戦を経験し、住民の4人に1人が命を落とした戦争の記憶を背負った土地です。戦後も米軍基地が集中し、今もなお基地問題や軍事化の不安にさらされています。そうした沖縄の現実立ち、あらためて「平和をつくるための包括的性教育」という大会テーマを掲げたことには、大きな意義があったと感じています。

2日間の大会は、現地会場とオンラインをつなぐハイブリッド形式で実施されました。1日目の全体会では、基調講演やシンポジウムを通して、包括的性教育が「からだの権利」「性的自己決定権」を大切に、平和な社会をつくる基盤であることを共有できました。2日目の模擬授業・分科会では、全国から持ち寄られた多彩な実践が披露され、参加者同士が学び合い、互いに励まし合う貴重な場となりました。会場の熱気と、画面越しに伝わってくる真剣なまなざしは、まさに“全国夏期セミナー”ならではの風景でした。

また、今回の大会を準備する過程そのものが、大きな学びの連続でした。現地委員会では、若い世代の仲間も加わり、初めてセミナー運営に挑戦しました。会場探し、広報活動、資料づくり、そして当日の運営。決して平坦な道のりではありませんでしたが、一つひとつの課題を力を合わせて乗り越えるこ

とで、仲間としての絆を強めることができました。

さらに今回は、沖縄ならではの要素も盛り込みました。ガジュマルに宿る妖怪「キジムナー」をモチーフにしたロゴは、平和の願いを子どもたちの視点から全国へ、そして世界へと発信する象徴となりました。オプショナルツアーでは、基地問題の現場や戦跡を訪ね、平和教育と包括的性教育がつながることを実感していただけたのではないかと思います。こうした企画にご協力いただいた講師や団体の皆さまにも、改めて感謝申し上げます。

私自身は今回初めての全国夏期セミナーの参加となったのですが、全国の仲間がともに集い、学び合い、笑顔と熱意で沖縄を包み込んでくださったことが、とても嬉しく感じました。「沖縄でやってよかった」という参加者の声をたくさんいただき、実行委員一同、胸が熱くなりました。

今回の経験は、沖縄の私たちにとっても大きな財産となりました。平和を願う心と包括的性教育の実践が一つに結びついたこの2日間を、これからの日常の活動へとつなげていきたいと思っています。そして、次回開催地の長野へバトンを渡したいと思っています。

最後になりましたが、第44回全国夏期セミナー沖縄大会の成功は、全国の仲間一人ひとりのご尽力の賜物です。ともに学び、ともに築いた時間を忘れず、これからも平和と人権を守り育てる性教育を広げていきましょう。本当にありがとうございました。



嘉陽 真美
(第44回全国夏期セミナー沖縄大会
現地実行委員長)